

壁掛形非常用放送設備

品番 **WK-770B**
WK-775B
WK-780B

取扱説明書

この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電



このたびは、パナソニック 壁掛形非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

もくじ

特長	2	後押し優先方式について	28、29
安全上のご注意	3～4	書き込みについて	30、31
使用上のお願い	5	接続できる機器について	32
非常放送のしくみ	6～7	接続できる機器について	32
各部の名前と働き	8～11	マイク優先回路について	32
非常放送のしかた(1)～(6)	12～23	その他の動作	33
感知器起動(発報連動)	12、13	表示カードの使いかた	33
感知器起動(発報連動停止)	14、15	日常点検	34～36
発信機・非常電話起動(発報)	16、17	点検について	34
発信機・非常電話起動(火災)	18、19	電源の点検	35、36
手動(発報)	20、21	こんなときには	36
手動(火災)	22、23	定格・付属品	37
業務放送のしかた	24、25	保証とアフターサービス	裏表紙
ブロック放送について	26、27		

特長

小規模から中規模の建築物に適した非常用放送設備です。
蓄電池、リモコン回線、スピーカー回線、非常用マイク、コンピュータ自身の自己診断機能付きです。
必要な場所だけに放送できる、ブロック指定放送が可能です。
非常放送以外に、一般業務放送も可能です。
電力増幅ユニットにより60 W、120 W、240 W、360 Wのいずれか一つが選べます。
コールサインの上り4音、下り4音選択スイッチ付きです。
業務放送にマイク優先回路を搭載しています。
ラジオチューナー、増設音声合成ボードの増設組み込みが可能です。
汎用制御端子があります。(パトライトなど点灯制御可能です)

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」の内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

危険

蓄電池を 分解・改造しない



分解禁止

電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池を 火の中に入れてない



禁止

火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

蓄電池の + - 端子を ショートさせない



禁止

発熱、発火の原因となります。

安全上のご注意

必ずお守りください

⚠ 警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

必ず販売店に依頼してください。

定期的に点検をする



非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。

点検は、販売店や保守契約業者に依頼してください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

修理や点検は販売店にご連絡ください。

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

禁止

ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災の原因となります。

ただちに分電盤の電源を切って、販売店にご連絡ください。

周囲に物を置かない



非常時の操作の妨げになり、火災、災害の拡大の原因となります。

禁止

指定範囲は常に整理、整頓してください。

重量に耐える取り付けをする



取付の場所や方法が不適切な場合、落下（や転倒）などでけがの原因となります。

販売店に依頼してください。

決められたヒューズを使う



規定以外のヒューズを使うと、火災の原因となります。

⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

蓄電池をぬらさない



発熱、破損などの原因となります。

禁止

使用上のお願い

日常点検をしてください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検を行ってください。特に非常電源の点検は必ず行ってください。(点検方法は「日常点検」の項をごらんください。)

日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理・復旧を実費で行います。

くわしくは販売店にご相談ください。

日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。必ず定期点検を行ってください。

保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。建物の規模、用途によっては消防設備士、または自治大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。非常用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店(工事店)または販売会社にお問い合わせください。

保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。

分電盤のスイッチは絶対に切らないでください(常に主電源表示灯が点灯していること)。非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチには付属の非常放送用注意ラベルを貼付し、絶対に“切”にならないようにしてください。

設置について

- 本機の上や周囲に物を置かないでください。

本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障の原因となります。

また、左右0.3 m以内、操作面1 m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。

- 操作説明書は本機の近くに置いてください。

非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。

本機の上には絶対に置かないでください。

お手入れのしかた

- ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、から拭きしてください。

お願い

- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
- 化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

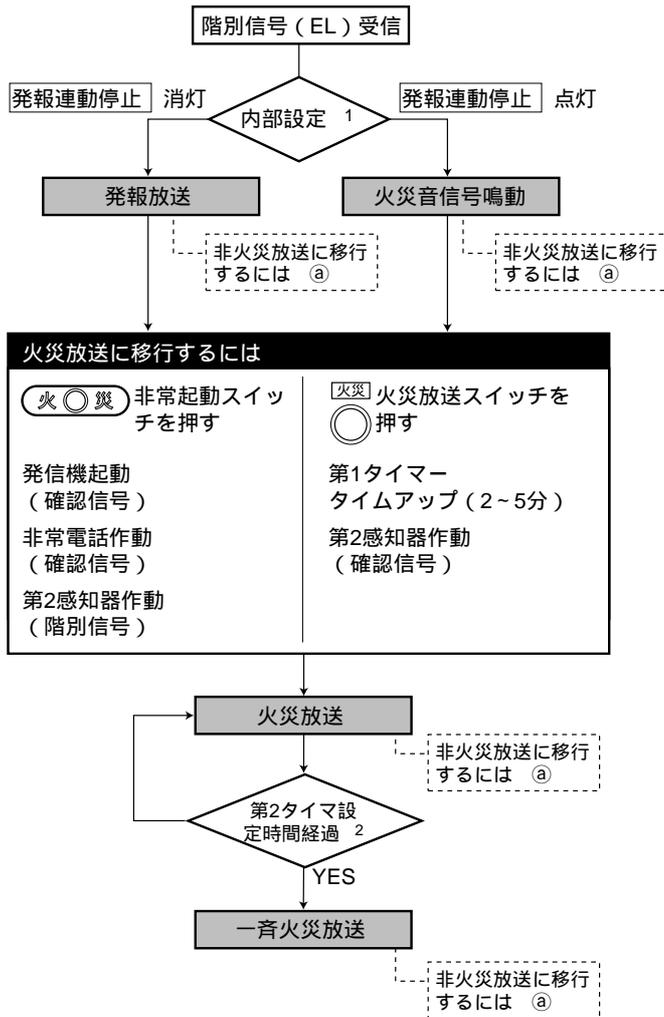
非常放送のしくみ

非常用放送設備は、火災発生時に音声合成による音声警報を自動的に放送します。

もちろん、通常の呼出放送など、業務放送も行えます。

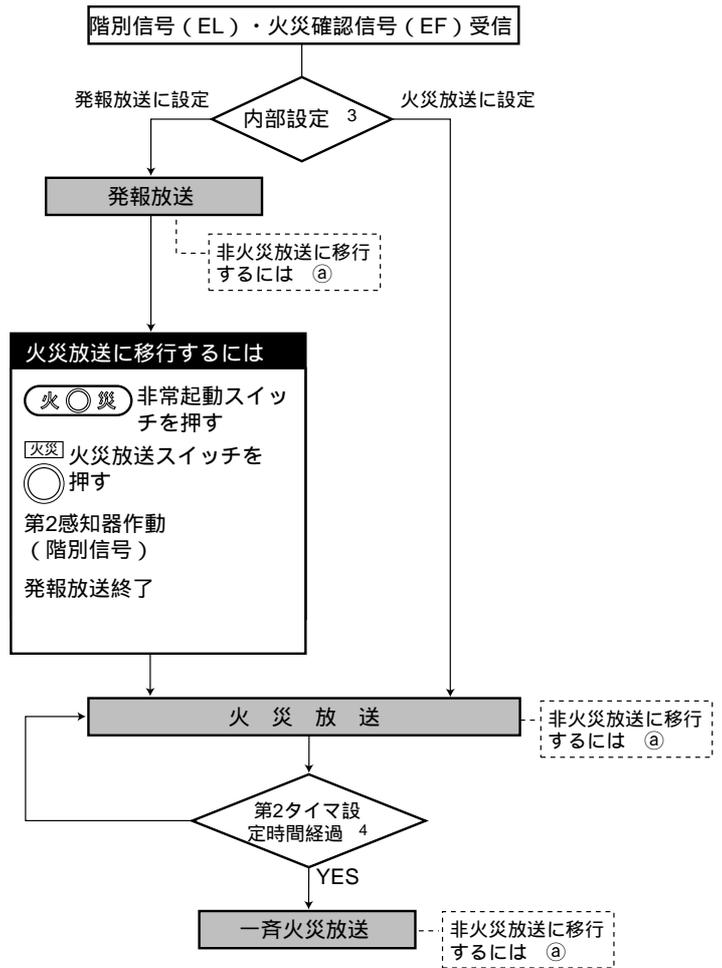
起動方式により操作方法(動作)に少し差があります。あらかじめ販売店(工事店)から起動方式を確認しておいてください。

火災感知器による起動



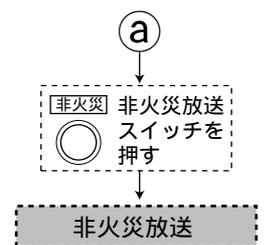
- 1 発報連動停止スイッチの設定内容
- 2 0分,2~5分(設定内容による)

発信機および非常電話による起動

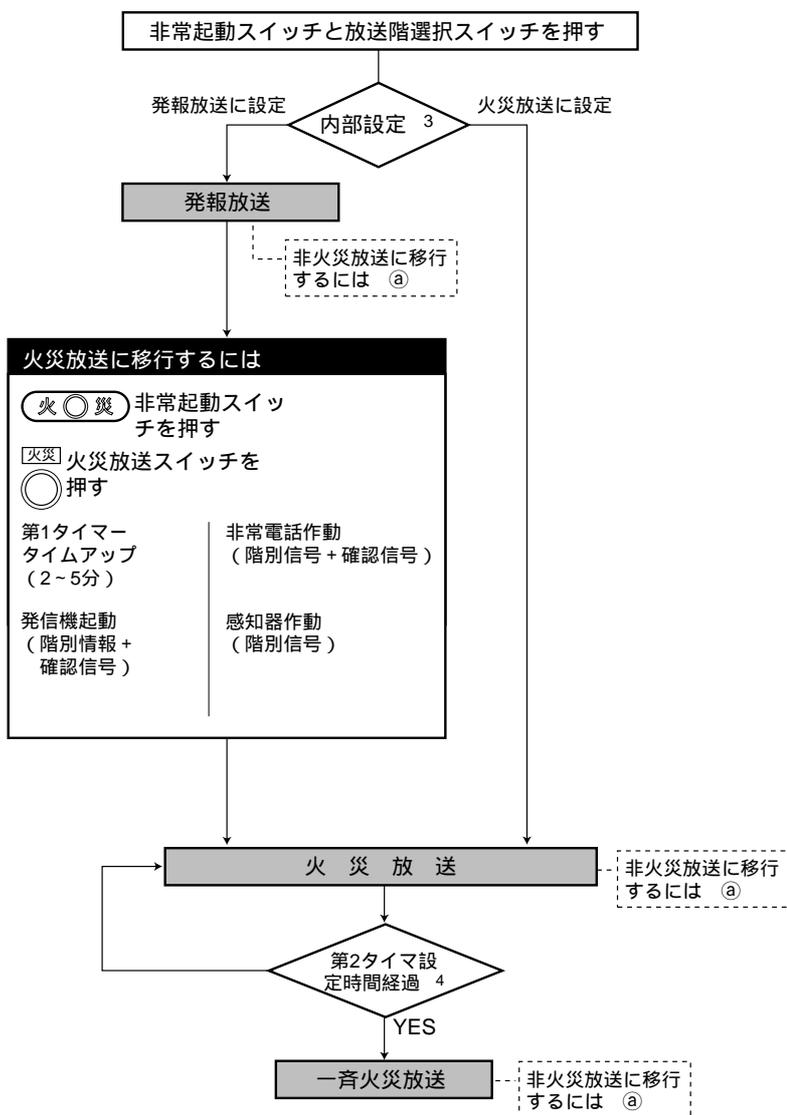


- 3 発報放送/火災放送切換スイッチ(マイクドア内)の設定内容
- 4 0分,2~5分(設定内容による)

非火災放送に移行するには
非火災放送スイッチを押すことにより非火災放送に移行できます。

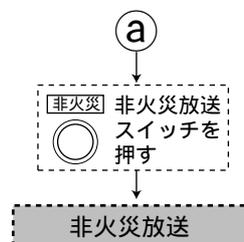


手動による起動



- 3 発報放送 / 火災放送切換スイッチ（マイクドア内）の設定内容
 4 0分, 2~5分（設定内容による）

非火災放送に移行するには
 非火災放送スイッチを押すこと
 により非火災放送に移行
 できます。



自火報に確認信号がない場合は、感知器起動動作になります。
 火災放送開始から一定時間経過した後、全館への一斉火災放送に移行する第2タイマー機能を有しています。
 増設音声ロムボード（別売品）を使用して階情報変更が可能です。
 （増設音声ロムボードについては、販売店にご相談ください。）

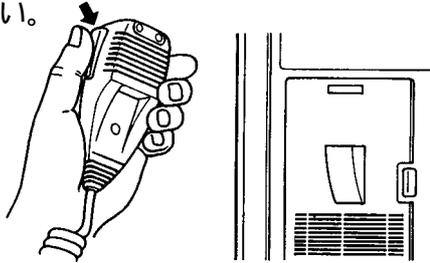
各部の名前と働き

①マイク指示灯(オレンジ色) []

- 非常時、オレンジ色に点滅します。
- マイク放送をしているあいだは、点灯にかわります。

②非常、一般業務放送兼用マイクロホン

- マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。



- マイクスイッチを押したとき、電子音(ピッ)は出ません。

③モニタースピーカー

- マイクのスイッチを押すとモニタースピーカーの音は切れますのでハウリング(ピー音)は起こりません。
- 音量はマイクドア内のモニタ音量スイッチで切り換えます。

④放送可能表示灯(緑色)放送可能

一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能となります。放送中に消灯したときは、リモコン放送、一般外部放送、チャイム放送などを放送中です(後押し優先方式の項もご参照ください。)



⑤一斉放送スイッチ

- 一斉放送するときに押します。
- 3線式配線の場合、アッテネータ(音量調整器)が「OFF」の状態でも放送できます。(この場合、放送階選択指示灯が点灯します。)
- アッテネータ「OFF」のとき、放送できなくすることも可能です。



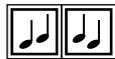
⑥放送復旧スイッチ

放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。(放送可能表示灯が消えます。)



⑦コールサインスイッチ

放送可能表示灯が点灯している時に、コールサインスイッチを押すと、コールサインを放送できます。



- 上り4音を放送できます。
- 下り4音を放送できます。

⑧出力レベル表示灯

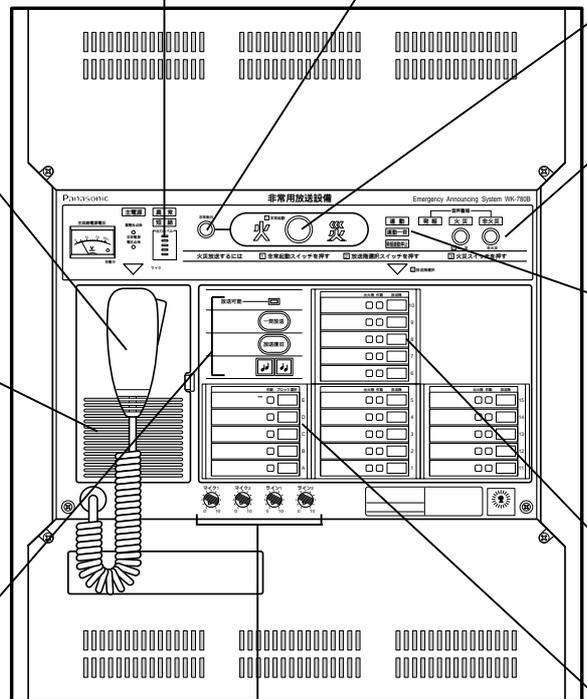
[出力レベル]

- スピーカーより流れる音の出力レベルを表示します。
- 接続された機器の音量調節は、赤色の表示灯が点灯しないよう調節します。

⑨非常復旧スイッチ

[非常復旧]

- 非常放送を復旧するときスイッチを押します。(一般放送復旧も可)

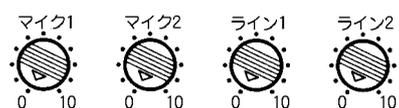


⑩入力音量つまみ

[マイク1、マイク2、ライン1、ライン2]

- 右にまわすと音量が大きくなります。
- 出力レベル表示灯により各々の音量を決めてください。(右表を目安としてください。)
- ライン1はCD入力、ライン2はページング入力またはレコード入力としても使用可能です。

	出力レベル
アナウンス	-10 ~ -5 dB
BGMなど	-20 ~ -10 dB



⑪非常起動スイッチ [非常起動]

- 手動で「非常放送」を放送するときに押しします。(発報放送時または発報連動停止状態で階別信号入力時に、このスイッチを押して火災放送することができます。)

⑫火災灯 (赤色)

- 階別信号からの非常起動により点滅します。
- 階別信号 + 火災確認信号からの非常起動により点灯します。
- 手動起動スイッチを押すと点灯します。
- 自動放送タイマー作動中は点滅します。

⑬発報放送表示灯 (オレンジ色) 発報

発報放送時に点灯します。

⑭火災放送表示灯 (赤色)



⑮火災放送スイッチ

非常時、スイッチを押すと火災放送表示灯 (赤色) が点灯し火災放送が放送されます。

⑯非火災放送表示灯 (緑色) 非火災



⑰非火災放送スイッチ

非常時、スイッチを押すと非火災放送表示灯 (緑色) が点灯し非火災放送が放送されます。

⑱連動表示灯 (赤色) 連 動

連動表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。

マイクドア内の連動スイッチを押すと点灯します。連動表示灯と連動一斉表示灯を同時に点灯することはできません。

⑲連動一斉表示灯 (赤色) 連 動 一 斉

連動一斉表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると全館一斉に「非常放送」が放送されます。

マイクドア内の連動一斉スイッチを押すと点灯します。連動表示灯と連動一斉表示灯を同時に点灯することはできません。

⑳発報連動停止表示灯 (赤色) 発報連動停止

発報連動停止表示灯が点灯しているときは、感知器からの階別信号を受信しても「発報放送」は放送されません。「発報放送」を放送するときはマイクドア内の発報連動停止スイッチを押して、発報連動停止表示灯を消灯状態にしてください。

㉑放送階選択指示灯 (オレンジ色) ②放送階選択

- 非常時 (階別信号など、外部起動で非常動作になった場合) オレンジ色に点灯します。
- 手動非常動作時 (非常起動スイッチON) に点滅します。この後階別信号入力や手動入力 (放送階選択スイッチ、ブロック選択スイッチON) で点灯に変わります。
- 一般放送時、一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチを押したとき点灯します。(一斉放送スイッチは、書き込みによる緊急一斉指定した状態で点灯)

㉒放送階選択スイッチ [放送階選択]

- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が点灯) (緑色)
- 放送階選択スイッチを個別に復旧するときは、再度押します。(作動表示灯が消える)
- すべてを復旧するときは放送復旧スイッチを押します。(すべての作動表示灯が消えます)

㉓出火階表示灯 (赤色) [出火階]

- 非常時、階別信号により起動を受けた階の出火階表示灯が赤色に点灯し、出火階を表示します。

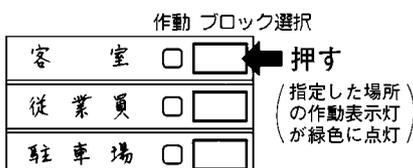
㉔作動表示灯 (緑色) [作動]

- 放送階選択スイッチまたは、ブロック選択スイッチを押すと緑色に点灯します。
- 一斉放送スイッチを押すとすべてが点灯します。
- 非常時、出火階または連動階の作動表示灯が点灯します。
- スピーカー回線が短絡すると、短絡した階の作動表示灯が点滅します。このとき、短絡表示灯 (赤) も点灯します。販売店または保守契約店にご連絡ください。

㉕ブロック選択スイッチ [ブロック選択]

㉖ブロック作動灯 (緑色) [作動]

- ブロック指定した場所に放送するとき押しします。
- ブロック選択スイッチを押すと、ブロック指定した作動表示灯が緑色に点灯します。
- ブロック選択スイッチの復旧は、放送復旧スイッチを押します。
- ブロック選択スイッチは、放送階選択スイッチよりも優先します。



各部の名前と働き

27 主電源表示灯 (緑色) [主電源]

- 常用電源 (AC100 V) が使用されているとき、緑色に点灯します。
- 非常電源 (DC24 V) に切り換わると消灯します。(停電時の非常動作時)

28 異常表示灯 (赤色) [異常]

次の回路に異常が生じると、赤色に点灯します。

1. コンピュータ → コンピュータ異常表示灯も点灯
2. リモコン回線 → リモコン回線異常表示灯も点灯
3. 蓄電池 → 蓄電池異常表示灯も点灯
4. 非常用マイク → マイク異常表示灯も点灯 (本体、リモコン) (異常の機械のみ点灯)

お願い

異常表示灯が赤色に点灯、または主電源表示灯が消えているときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

29 短絡表示灯 (赤色) [短絡]

スピーカ回線が短絡すると、赤色に点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

お願い

短絡表示灯が赤色に点灯したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

30 蓄電池点検スイッチ [蓄電池点検]

スイッチを押すと主回路電源電圧計に約10秒蓄電池電圧が示されます。(指針が緑色の範囲内であれば正常です。)

31 非常電源電圧点検スイッチ [非常電源電圧点検]

スイッチを押している間、主回路電源電圧計に非常電源電圧が示されます。(指針が緑色の範囲内 (DC21 ~ 31 V) であれば正常です。)

32 主回路電源電圧計 [主回路電源電圧]

通常は主回路電源電圧を表示します (DC21 ~ 31 V)。それぞれの点検スイッチを押すと蓄電池電圧、非常電源電圧がしめされます。

33 充電中表示灯 (緑色)

充電中は緑色に点灯します。

34 マイクドア

開けると内部に各種異常表示灯と設定用、書き込み用スイッチ類があります。

35 チューナblankパネル

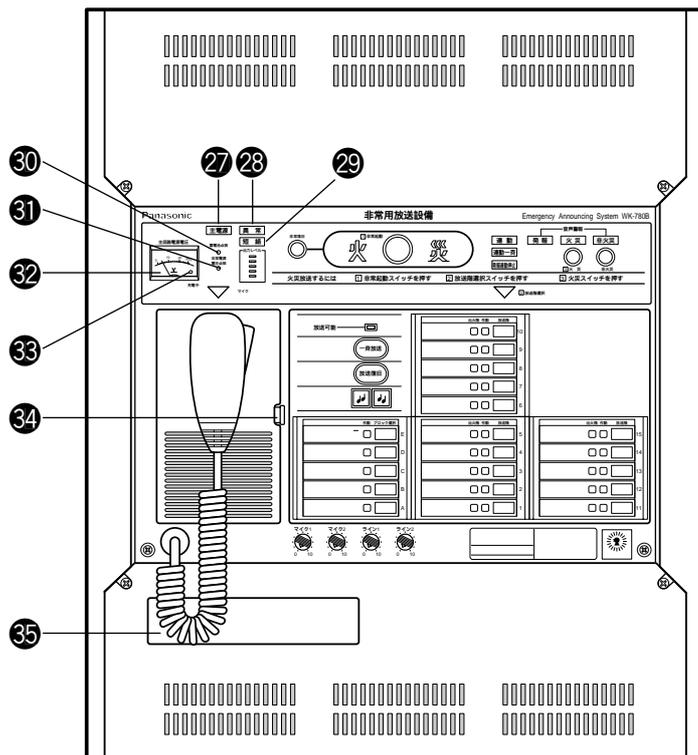
ラジオチューナ取付金具 (別売) を使用して、ラジオチューナユニット (別売) を取り付けることができます。(工事説明書参照)

36 マイク1入力ジャック [マイク1入力]

有線マイクなどの接続ができます。

37 ライン2入力ジャック [ライン2入力]

外部機器などの接続ができます。

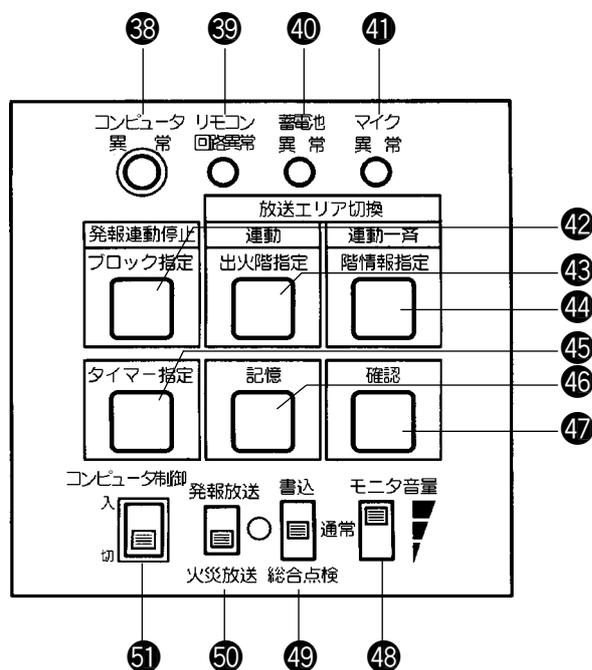


正面



底面

マイクドア34内



③⑧～③⑨各種異常表示灯

- 操作パネル左上の異常表示灯が赤色に点灯したとき、下の表示灯のいずれかが赤色に点灯します。
- どこが異常なのか確認してから販売店、保守契約店にご連絡ください。
- 異常表示灯点灯時は警告音が「ピーピー」鳴り、異常をしらせませす。
警告音を止めるにはいずれかのスイッチを押してください。一時的に止めることができます。

③⑩コンピュータ異常表示灯（赤色）

コンピュータ異常時、点灯します。

③⑪リモコン回線異常表示灯（赤色）

リモコン回線異常時、点灯します。異常のあるリモコンのリモコン回線異常表示灯も点灯します。

④①蓄電池異常表示灯（赤色）

蓄電池電圧が異常の場合、点灯します。

④②マイク異常表示灯（赤色）

マイクがなんらかの原因で断線状態になると点灯します。

リモコンのマイク異常であれば異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。

④③発報連動停止/ブロック指定スイッチ

- 「書き込み」スイッチの位置が「通常」のとき「発報連動停止」スイッチとして動作します。スイッチを押す度に発報連動停止状態/発報連動状態が切り換わります。
- 「書き込み」スイッチの位置が「書込」のとき「ブロック指定」スイッチとして動作します。ブロック放送を設定するときに使用します。（詳しくは「工事説明書」をご覧ください。）

④④連動/出火階指定スイッチ

- 「書き込み」スイッチの位置が「通常」のとき連動スイッチとして動作します。スイッチを押すと連動状態になり、連動表示灯が点灯します。
階別信号を受信すると、出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。
- 「書き込み」スイッチの位置が「書込」のとき出火階指定スイッチとなります。音声警報を設定するときに使用します。（詳しくは「工事説明書」をご覧ください。）

④⑤連動一斉/階情報指定スイッチ

- 「書き込み」スイッチの位置が「通常」のとき連動一斉スイッチとして動作します。スイッチを押すと連動一斉状態となり、連動一斉表示灯が点灯します。
階別信号を受信すると、全館一斉に「非常放送」が放送されます。
- 「書き込み」スイッチの位置が「書込」のとき階情報指定スイッチとなります。音声警報を設定するときに使用します。（詳しくは「工事説明書」をご覧ください。）

④⑥タイマー指定スイッチ

「書込」のとき、タイマー指定モードとしタイムアップ時間を設定します。

④⑦記憶スイッチ

- 「書込」のとき、書き込んだ内容を記憶させるとき、押します。
- 記憶されるとブザー（ピーと約1秒）音が鳴ります。

④⑧確認スイッチ

書き込んだ内容を確認するとき、押します。

④⑨モニタ音量スイッチ

モニタ音量を3段階に切り換えできます。（非常時は無効です。）

④⑩書き込みスイッチ

[書込/通常/総合点検]

- 書き込み、総合点検、通常の切換スイッチです。
- 書き込み時は「書込」位置、総合点検時は「総合点検」位置にします。書き込み、総合点検終了後は、必ず「通常」位置にして、発報放送/火災放送切換スイッチと一緒に固定金具で固定してください。（工事説明書参照）
- 通常は「通常」位置とします。（出荷時は「通常」位置です。）
- 総合点検モードでは本機の動作をスピーカ回線と切り離して確認できます。

④⑪発報放送/火災放送切換スイッチ

[発報放送/火災放送]

設置時に発報放送/火災放送の指定をします。

④⑫コンピュータ制御スイッチ

[コンピュータ制御 入/切]

- 通常は必ず「入」位置にしてください。
- 異常が発見され、修理した後、このスイッチを「切」にしてから「入」にすると、正常の動作に戻ります。

● コンピュータ異常時に放送するとき、「切」にすると一斉マイク放送ができます。

非常放送のしかた(1) 感知器起動

発報連動停止 表示→消灯時。(出荷時：消灯)

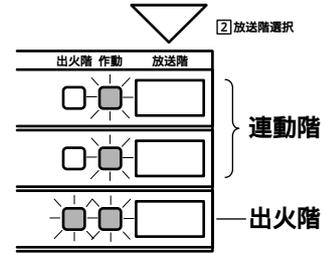
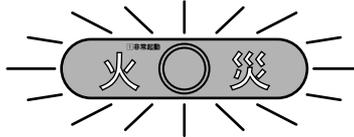
(消灯/点灯の切り換えは、マイクドア内の“発報連動停止スイッチ”で行う。)



(階別信号入力)
感知器から
信号がくる。
(発報状態)

1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま 階の火災感知器が作動しました。
係員が確認しておりますので、次の放送に
ご注意ください。」



連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

- 火災灯点灯 (赤色)
- 出火階表示灯点灯 (赤色)
- 階別の作動表示灯点灯 (緑色)

2 操作を選択する。

火災 火災放送スイッチを押す。

- 非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。
以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。

- 発信機起動(火災確認信号)
- 非常電話作動(火災確認信号)
- 第二感知器作動(階別信号)
- 同上(火災確認信号)
- 第1タイマータイムアップ(2~5分)



マイク放送 (A)へ

マイクを外し、マイクスイッチを押すと、マイク放送が優先して流れます。

非火災 (B)へ

非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン

「火事です! 火事です! 階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。マイクで放送する場合は(A)へ
- 第2タイマーの設定時間(0分/2~5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。4へ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。(B)へ

4 「一斉火災放送」が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送する場合は(A)へ、「非火災放送」をする場合は(B)へ

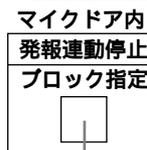
5 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

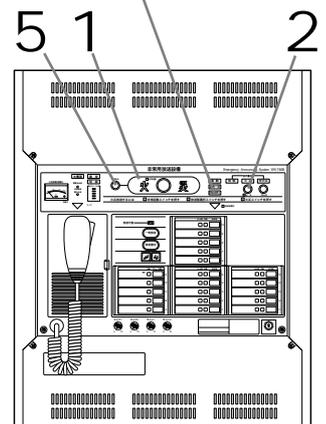
(感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)



発報連動停止 消灯

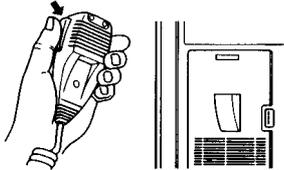


押すと表示が
切替わる



① 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す



- 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

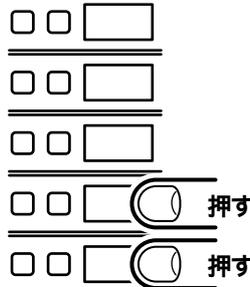
放送階を選択し直すとき
放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間（0分 / 2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチは無効となります。

必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

② 「非火災放送」を放送するには

B-1 非火災放送スイッチを押す。

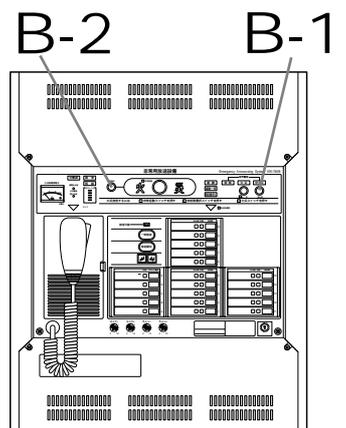
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
（感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）



非常放送のしかた(2) 感知器起動

発報連動停止 表示→点灯時。(出荷時：消灯)

(消灯/点灯の切り換えは、マイクドア内の“発報連動停止スイッチ”で行う。)



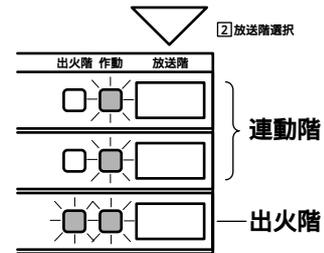
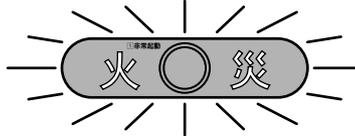
(階別信号入力)
感知器から
信号がくる。
(発報状態)

1 モニタスピーカから火災音信号が放送される。

ピー、ピー、ピー

「発報放送」は放送されません。

- 火災灯点灯(赤色)
- 出火階表示灯点灯(赤色)
- 階別の作動表示灯点灯(緑色)



2 操作を選択する。

火災 火災放送スイッチを押す。

- 非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。
 - 発信機起動(火災確認信号)
 - 非常電話作動(火災確認信号)
 - 第二感知器作動(階別信号)
 - 同上(火災確認信号)
 - 第1タイマータイムアップ(2~5分)



マイク放送 (A)へ

マイクを外し、マイクスイッチを押すとマイク放送が優先して流れます。

非火災 (B)へ

非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン

「火事です!火事です! 階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。マイクで放送する場合は(A)へ
- 第2タイマーの設定時間(0分/2~5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。4へ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。(B)へ

4 「一斉火災放送」が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送する場合は(A)へ
- 「非火災」放送を放送する場合は(B)へ

5 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

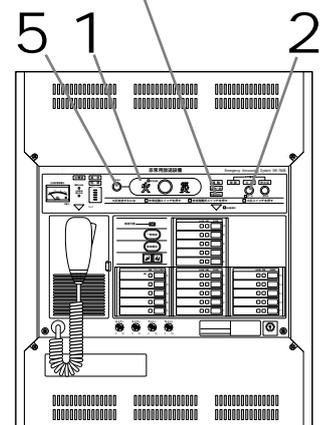
(感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)



発報連動停止 消灯

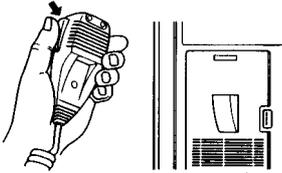
マイクドア内
発報連動停止
ブロック指定

押すと表示が
切替わる



① 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す



- 作動表示灯が点灯している際にマイク放送が流れます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

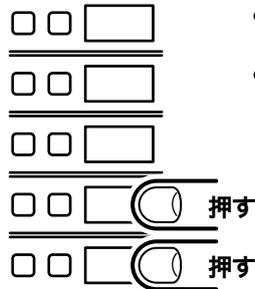
放送階を選択し直るとき
放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間（0分 / 2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチは無効となります。

必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

② 「非火災放送」を放送するには

B-1 非火災放送スイッチを押す。

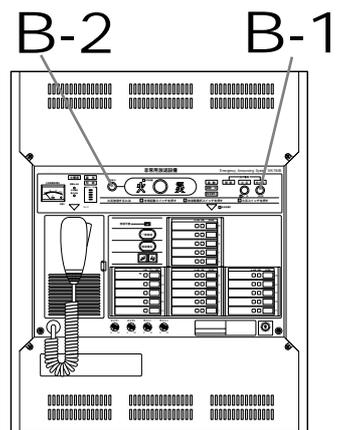
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
（感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）



非常放送のしかた(3) 発信機・非常電話起動(発報)

マイクドア内のスイッチが「発報放送」時→(マイクドア内の“発報放送/火災放送切換”スイッチで切り換えを行う。)
(出荷時：発報放送)



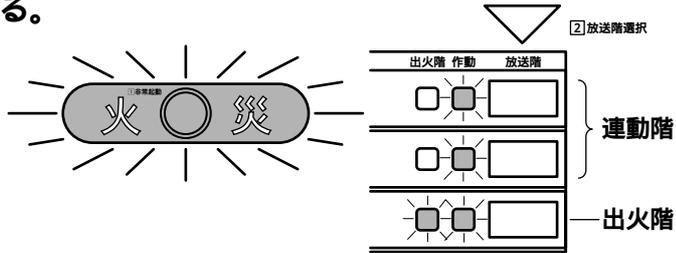
(階別信号 + 火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号がくる。
(発報状態)

1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま 階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。

- 火災灯点灯 (赤色)
- 出火階表示灯点灯 (赤色)
- 階別の作動表示灯点灯 (緑色)



2 操作を選択する。

火災 火災放送スイッチを押す。

- 非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。

- 第二感知器作動 (階別信号)
- 発報放送終了 (メッセージ2回)



マイク放送 (A)へ

マイクを外し、マイクスイッチを押すとマイク放送が優先して流れます。

非火災 (B)へ

非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

3 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン

「火事です! 火事です! 階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。マイクで放送する場合は(A)へ

- 第2タイマーの設定時間 (0分 / 2~5分) が経過すると一斉火災放送に移行します。 4へ

非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。 (B)へ

4 「一斉火災放送」が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送する場合は(A)へ
- 「非火災」放送を放送する場合は(B)へ

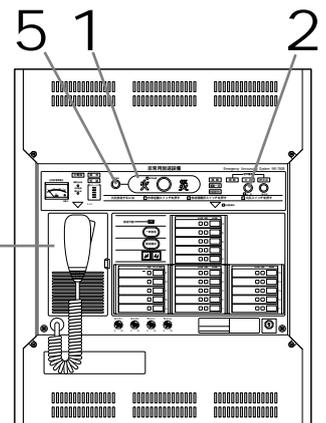
5 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

(感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

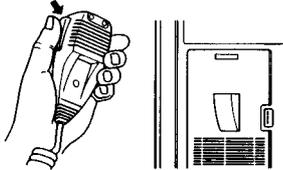


マイクドア内
発報放送
火災放送



① 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す



- 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

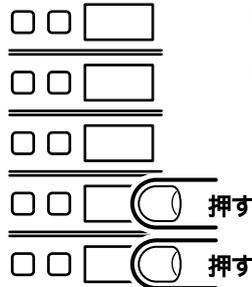
放送階を選択し直すとき
放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間（0分 / 2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチは無効となります。

必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

② 「非火災放送」を放送するには

B-1 非火災放送スイッチを押す。

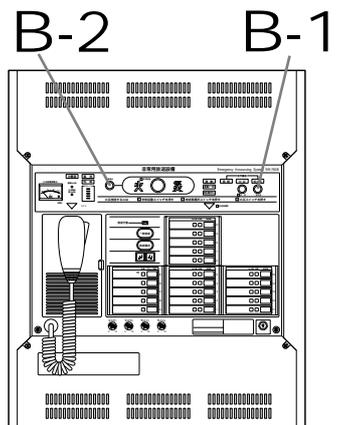
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
（感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）



非常放送のしかた(4) 発信機・非常電話起動(火災)

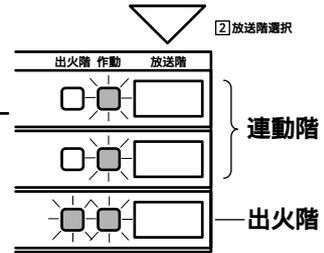
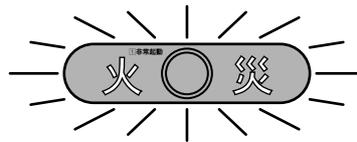
マイクドア内のスイッチが「火災放送」時⇒(マイクドア内の“ 発報放送 / 火災放送切換 ” スイッチで切り換えを行う。)
(出荷時：発報放送)



(階別信号 + 火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号がくる。
(発報状態)

1 出火階、連動階に火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です！火事です！ 階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)



連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。

- 火災灯点灯 (赤色)
- 出火階表示灯点灯 (赤色)
- 階別の作動表示灯点灯 (緑色)

● マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。マイクで放送する場合は(A)へ

● 第2タイマーの設定時間(0分/2~5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。4へ

● 非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。(B)へ

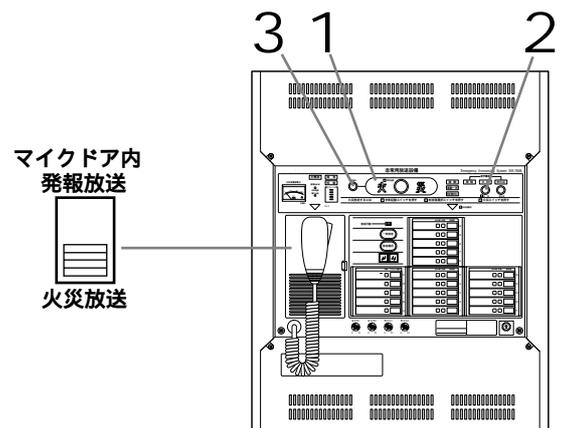
2 「一斉火災放送」が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送する場合は(A)へ
- 「非火災」放送を放送する場合は(B)へ

3 非常復旧スイッチを押す。

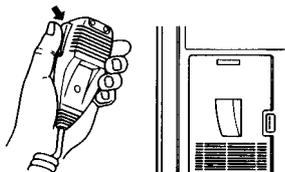
非常放送が終了します。

(感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)



① 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す



- 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

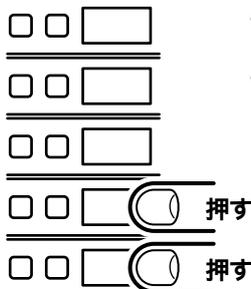
放送階を選択し直すとき
放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間（0分 / 2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチは無効となります。

必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

② 「非火災放送」を放送するには

B-1 非火災放送スイッチを押す。

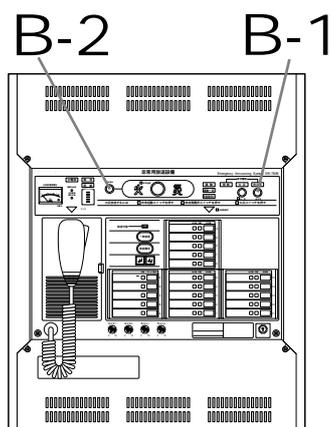
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
（感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）



非常放送のしかた(5) 手動(発報)

マイクドア内のスイッチが「発報放送」時→(マイクドア内の“発報放送/火災放送切換”スイッチで切り換えを行う。)
(出荷時：発報放送)



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書をご覧ください。

1 非常起動スイッチを押す。

- 放送階選択指示灯が点滅

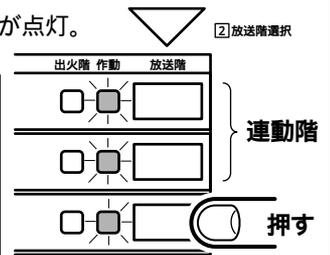


2 放送したい階の放送選択スイッチを押す。

発報放送が放送されます。

- 放送階・連動階の作動表示灯が点灯。
- 放送階選択指示灯が点灯。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」



3 操作を選択する。

火災 火災放送スイッチを押す。

- 非常起動スイッチを押して、「火災放送」を放送することもできます。以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。
 - 発信機起動 (火災確認信号+階別信号)
 - 非常電話作動 (火災確認信号+階別信号)
 - 感知器作動 (階別信号)
 - 第1タイマータイムアップ (2~5分)



マイク放送 (A)へ

マイクを外し、マイクスイッチを押すとマイク放送が優先して流れます。

非火災 (B)へ

非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

4 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン

「火事です!火事です! (階で) 火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

: 階別信号を受信して火災放送に移行したとき、階情報(階で)が自動的に文章に追加されます。

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。マイクで放送する場合は(A)へ
- 第2タイマーの設定時間(0分/2~5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。5へ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。(B)へ

5 「一斉火災放送」が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送する場合は(A)へ

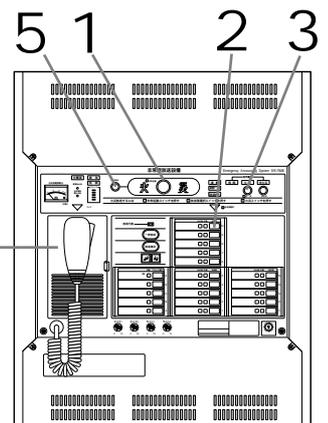
6 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

(感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)

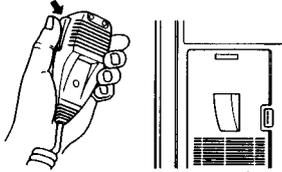


マイクドア内
発報放送
火災放送



①状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す



- 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

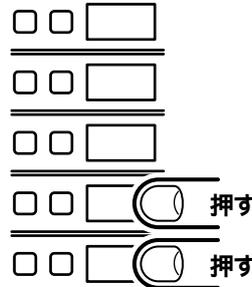
放送階を選択し直すとき
放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間（0分 / 2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチは無効となります。

必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

②「非火災放送」を放送するには

B-1 非火災放送スイッチを押す。

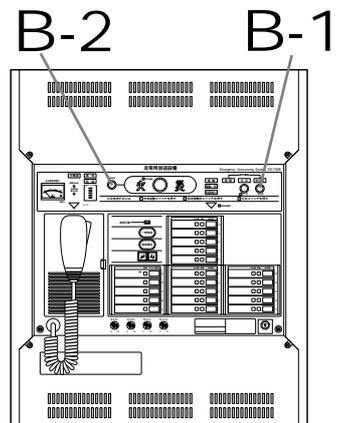
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
（感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）



非常放送のしかた(6) 手動(火災)

マイクドア内のスイッチが「火災放送」時⇒(マイクドア内の“発報放送/火災放送切換”スイッチで切り換えを行う。)
(出荷時：発報放送)



手動起動には、手動連動と個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書をご覧ください。

1 非常起動スイッチを押す。

- 放送階選択指示灯が点滅

2 放送したい階の放送選択スイッチを押す。

- 放送階・連動階の作動表示灯が点灯。
- 放送階選択指示灯が点灯。

3 「火災放送」が放送される。

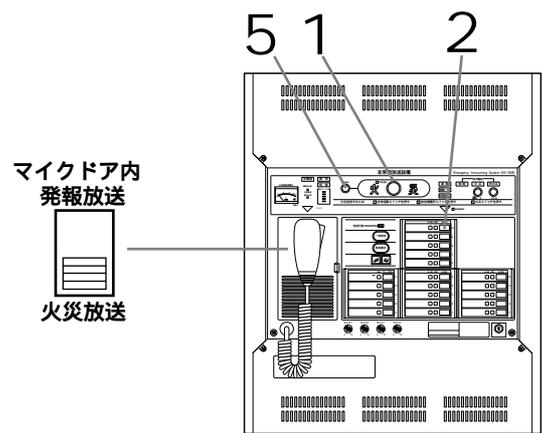
ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です！火事です！火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。マイクで放送する場合は **A**へ
- 第2タイマーの設定時間(0分/2~5分)が経過すると一斉火災放送に移行します。 **4**へ
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。 **B**へ

4 「一斉火災放送」が放送される。

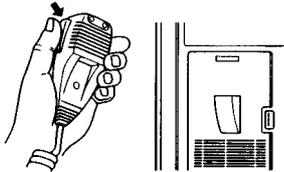
- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送する場合は **A**へ

5 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
(感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。)



①状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

スイッチを押す



- 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

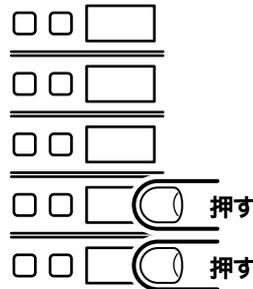
放送階を選択し直すとき
放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

第2タイマーの設定時間（0分 / 2～5分）を経過した後は放送復旧スイッチは無効となります。

必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

②「非火災放送」を放送するには

B-1 非火災放送スイッチを押す。

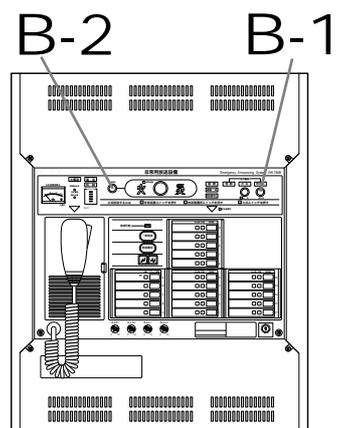
非火災放送スイッチを押すと「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

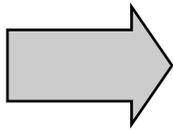


B-2 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。
（感知器が動作している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません。）



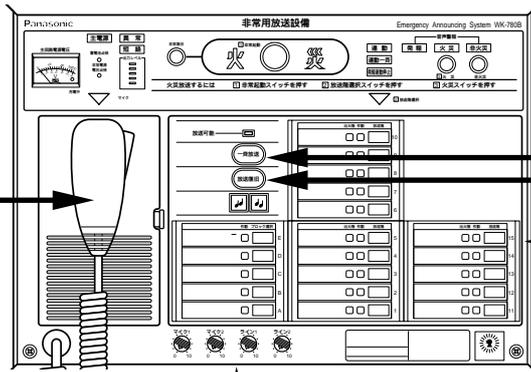
業務放送のしかた



太い矢印は操作の手順を示します。

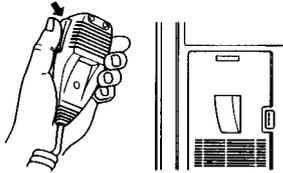


細い矢印は操作部を示します。



マイクで放送する。

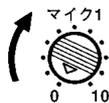
スイッチを押す



マイク 1(2) の
マイクロホンで
アナウンス放送
するとき



マイク 1(2) 音量
つまみを調節しま
す。



ライン 2 音量つま
みを調節します。



レコードを放送
するとき



レコードプレーヤーは、基板内部でラ
イン 2 と切り換えが必要です。

① スピードを合わせ
② トーンアームを
のせます。

操作方法については、
お手持ちのレコード
プレーヤーの取扱説
明書をお読みくださ
い。



テープレコーダ
ーやCDを放送
するとき



ライン 1 音量つま
みを調節します。



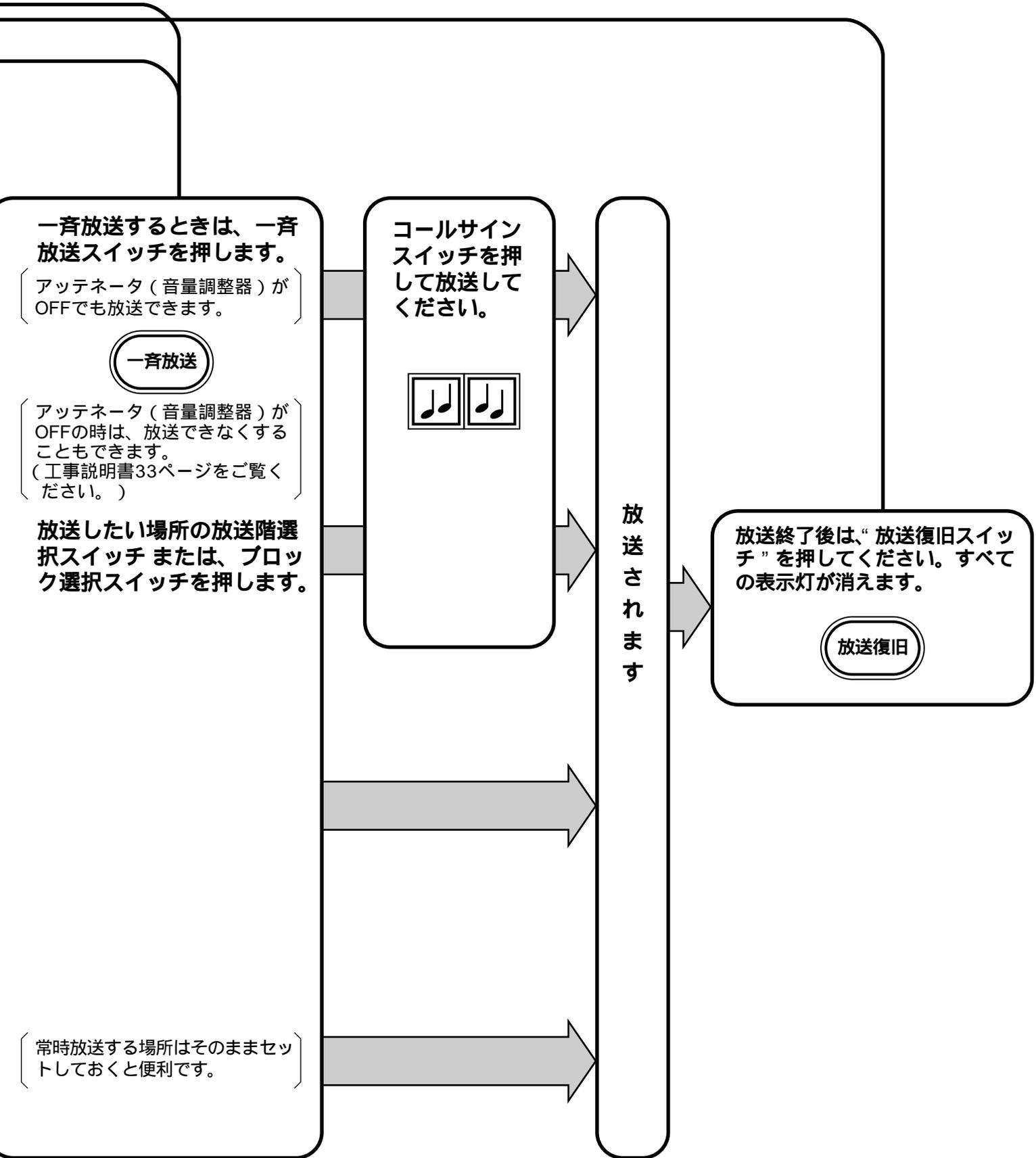
テープレコーダ
ーやCDプレーヤーを
「再生」にします。

操作方法については、
テープレコーダーや
CDプレーヤーの取
扱説明書をお読みく
ださい。



音量つまみの目盛は、7か8が目安ですが正しくは、出力レベル表示灯が-20~-5 dBになるように設定してください。

停電時は、業務放送はできません。

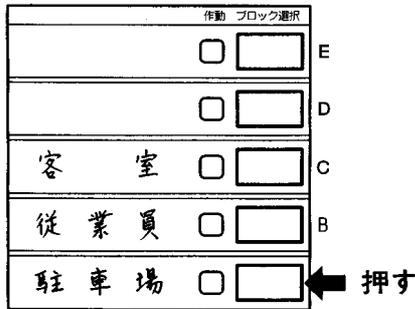


ブロック放送について

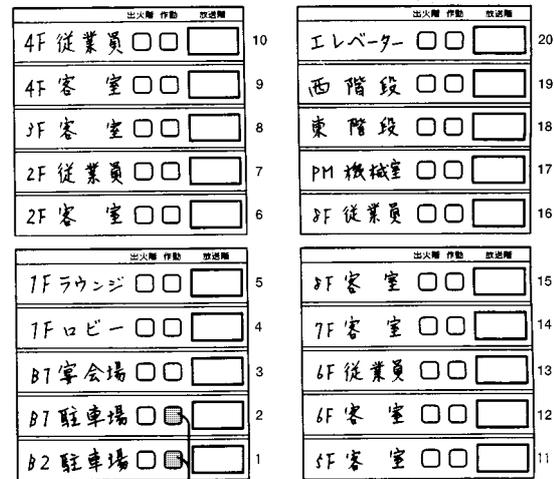
A～Eのブロック選択スイッチにより、階とは無関係に、同一放送したい場所をまとめて放送することができます。

一つのブロックに放送するとき

- 駐車場だけに放送したいときなどは、ブロック選択スイッチの「駐車場」を押します。
- 駐車場すべての作動表示灯が点灯します。



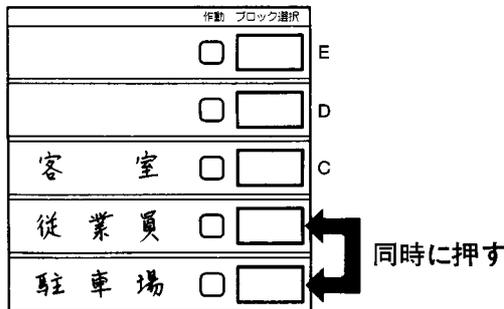
▽ 放送階選択



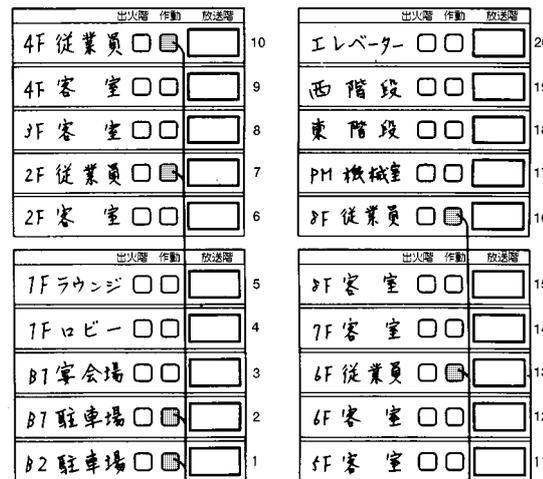
緑色に点灯

二つのブロックに放送するとき

- 駐車場と従業員室に同一放送をしたいときなどは、ブロック選択スイッチの「駐車場」と「従業員」を同時に押します。
- 駐車場および従業員すべての作動表示灯が点灯します。



▽ 放送階選択

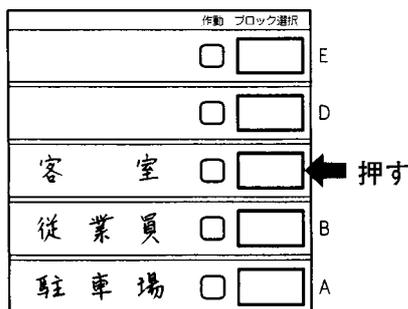


緑色に点灯

緑色に点灯

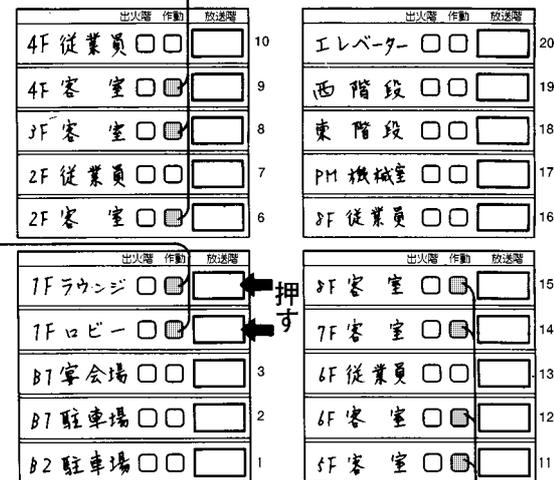
ブロックに追加放送するとき

- すべての客室と、1Fのロビー、ラウンジに放送したいときなどは、ブロック選択スイッチの「客室」を押してから、1Fラウンジ、1Fロビーの放送階選択スイッチを押します。
- 客室すべてと、1Fラウンジ、1Fロビーの作動表示灯が点灯します。



▽ 放送階選択

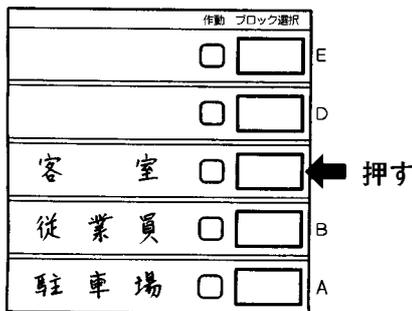
緑色に点灯



緑色に点灯

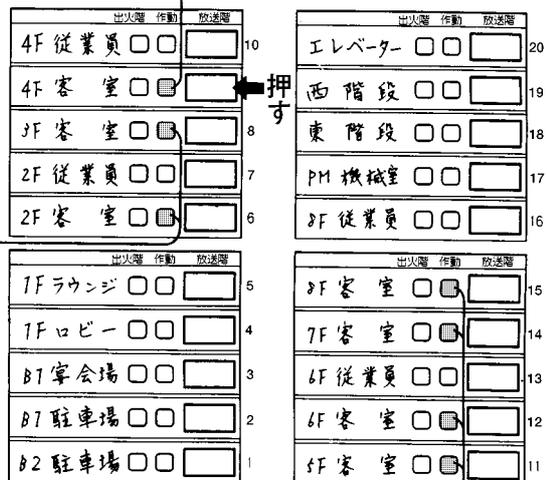
指定したブロックの中に放送のしたくない場所があるとき

- すべての客室に放送したいが、4Fの客室で重要な会議をしているため、放送を流せないときなどは、ブロック選択スイッチの「客室」を押してから、4F客室の放送階選択スイッチを押します。
- 客室すべての作動表示灯が点灯し、4F客室の作動表示灯が消えます。



緑色に点灯

スイッチを押すと
消える



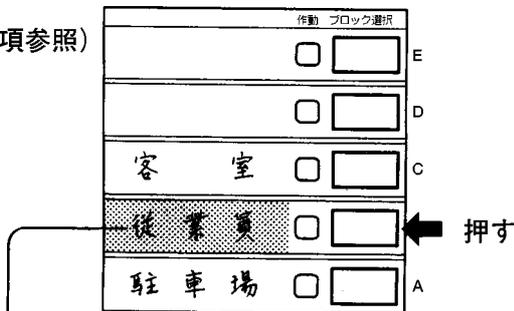
緑色に点灯

オレンジ色に点灯

ブロックに緊急放送をしたいとき

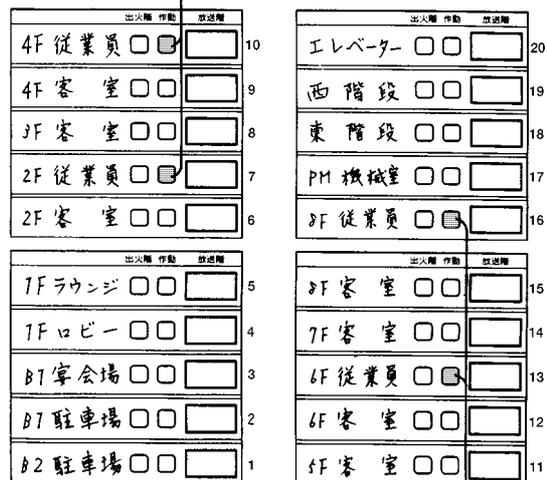
- 緊急事態発生、客室は避けて、従業員に緊急放送をしたいときなどは、ブロック緊急指定したブロック選択スイッチの「従業員」を押します。
- 従業員すべての作動表示灯と、放送階選択指示灯が点灯します。

(書き込み項参照)



※ブロック緊急指定したところに目印をつけると緊急時に便利です。

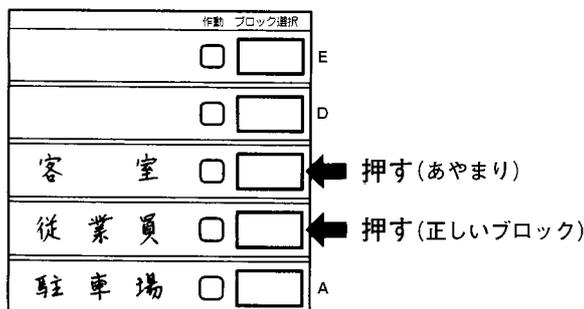
緑色に点灯



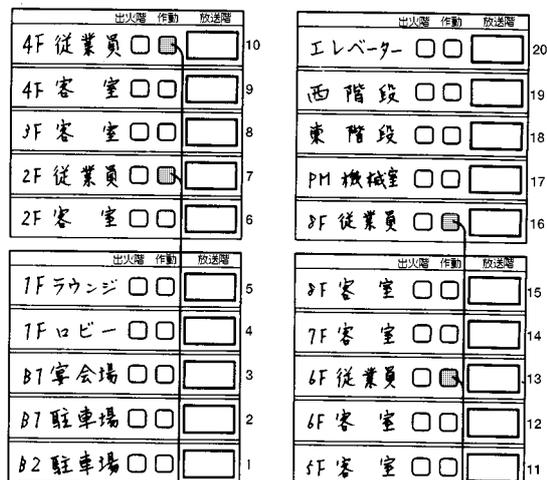
緑色に点灯

あやまって他のブロックを押し、訂正するとき

- 従業員室に放送するところを、あやまって「客室」のブロック選択スイッチを押してしまったときなどは、再度ブロック選択スイッチの「従業員」を押します。(後から押したスイッチが優先します。)
- 後から押した「従業員」の作動表示灯が点灯します。



放送階選択



緑色に点灯

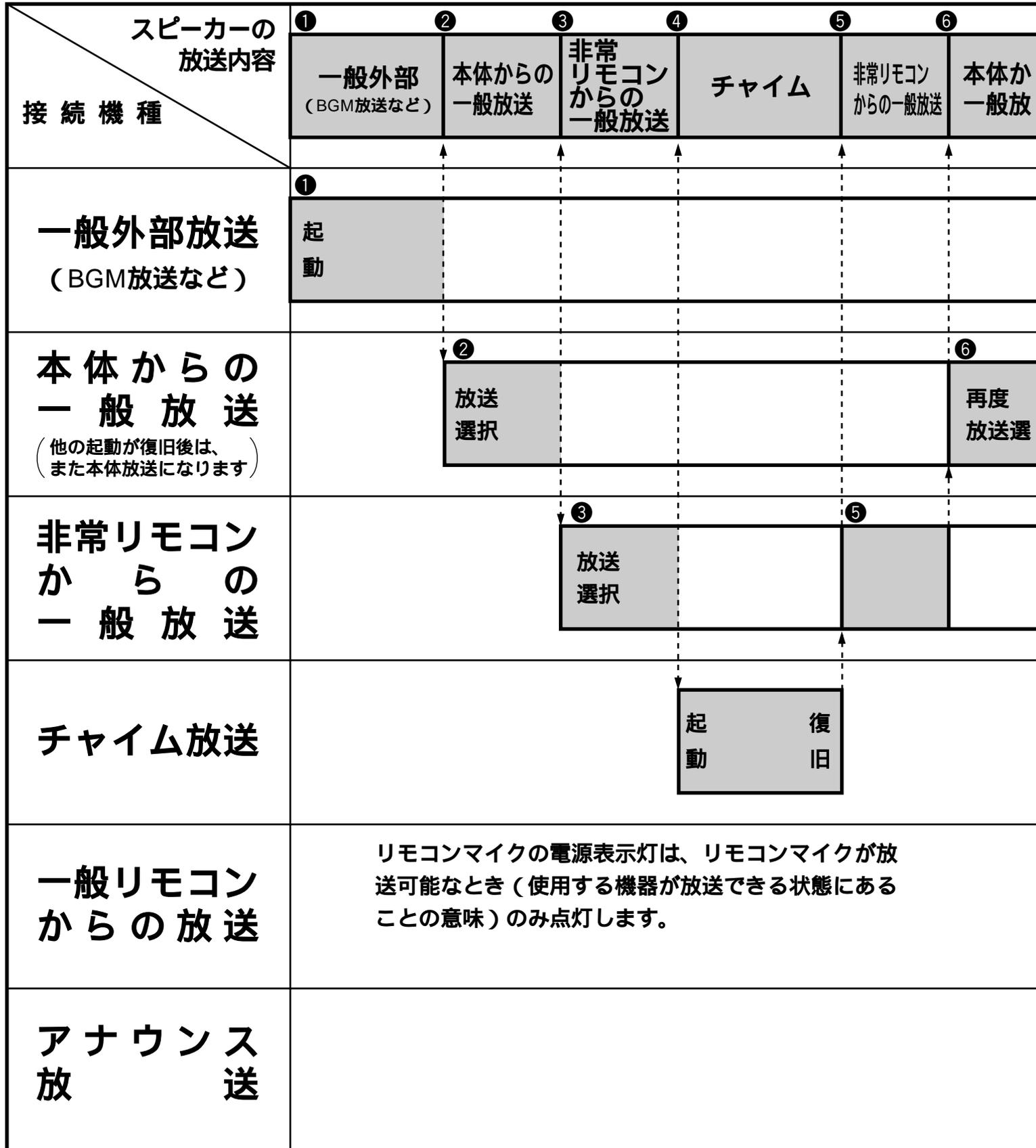
緑色に点灯

後押し優先方式について

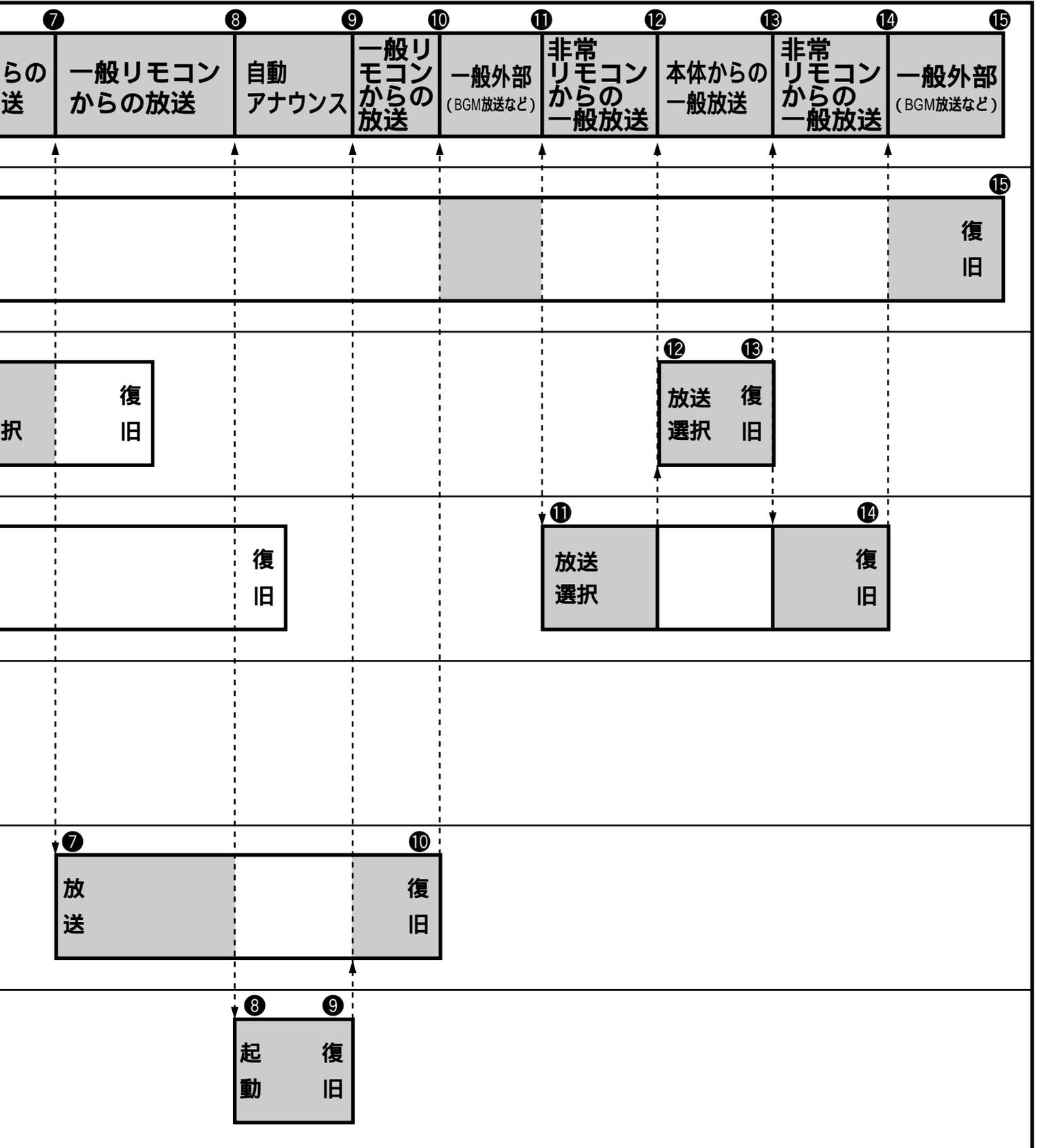
本機は、後押し優先方式を採用しており、一般放送時には常に後から押したスイッチが優先します。
 (非常放送時に後押し優先方式は働きません。)

例えば、一般外部放送中に、本体のマイク放送を始めると、スピーカからの放送は、マイク放送になります。
 また、本体のマイク放送が終了し、放送復旧スイッチを押すと一般外部放送が復旧されていないかぎり一般外部放送に戻ります。

[例] 下図は、本体および本体に接続される機器の放送開始や放送復旧の流れ図を示します。

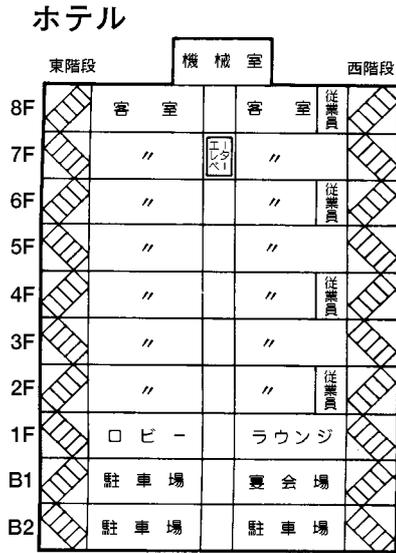


□の個所が、スピーカーより放送されています。

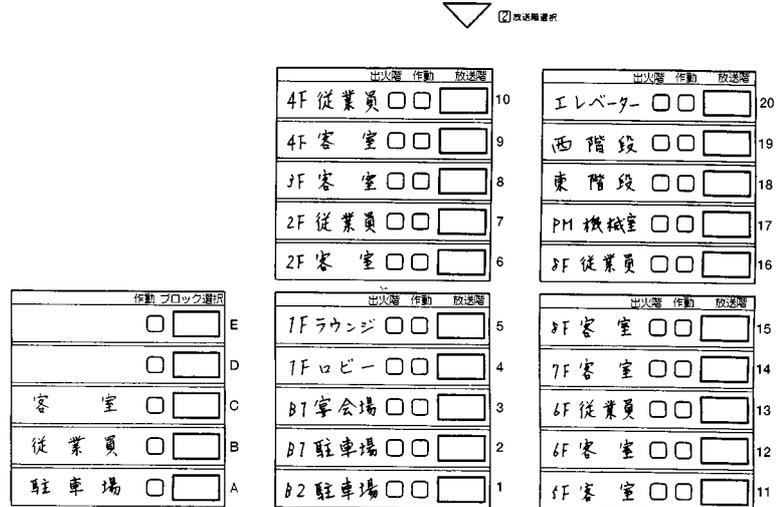


書き込みについて

書き込みについて



操作パネル面



本機には、建物の規模や放送の目的などによって、放送する場所や、機能を指定できる書き込み機能が内蔵されています。

書き込み機能は10項目あり、マイクドア内のスイッチを使って書き込みします。項目6～10の一般リモコンの書き込みは、端子部ショートまたは本体操作パネルスイッチから書き込みが可能です。

「書き込み」を行うには、工事説明書をお読みになるか、販売店にご依頼ください。

1. 出火階、連動階の指定

- 地下階やエレベーターまたは、一般放送の関係で、1つの階に2つ以上のスピーカー回線がある場合に、出火階と、それに連動して放送される階（連動階など）などの指定をすることができます。
- 1つの放送階選択スイッチが1つの階である場合には、書き込みしなくても、連動階、出火階に放送されます。

2. 階情報指定

階情報（感知器からの階別信号をどの放送階選択スイッチに割り付けるか）及び日本語放送、英語放送の指定をします。

（日本語のみ、日本語と英語（第2、第3外国語）の指定ができます。）

3. 一斉/緊急指定

- スピーカーのアッテネータが「OFF」になっていても、一斉放送したい場所をまとめて放送できます。
- アッテネータが「OFF」のときは放送できなくすることも可能です。

4. タイマー設定(1)～(3)

- 発報放送から火災放送へ移行するまでの時間：第1タイマー
- 火災放送から一斉火災放送へ移行するまでの時間：第2タイマー
- 発報放送の繰り返し回数と繰り返すまでの時間を設定します。

5. 一般ブロック放送

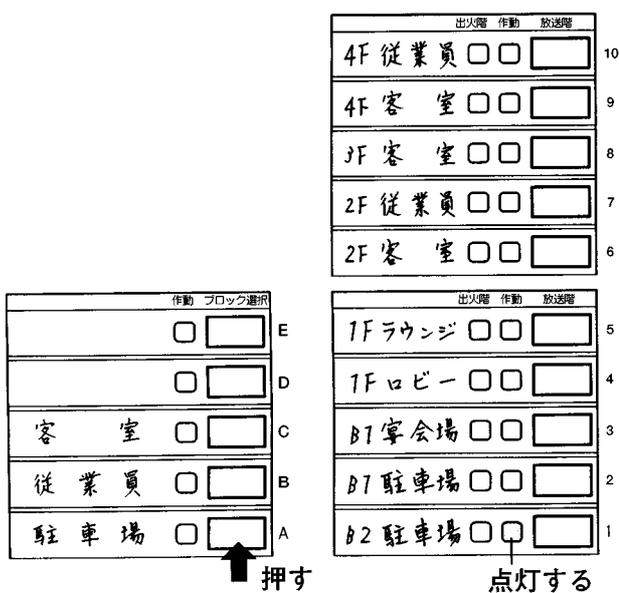
- A～Eのブロック選択スイッチにより、階とは無関係に同一放送したい場所をまとめて放送することができます。
- 例えば、上図のホテルを例にしますと、各階の従業員室のみ放送したい場合をあらかじめブロック指定（書き込み）しておきますと、ブロック選択スイッチ1つで、従業員室すべてを、まとめて放送することができます。

6. 一般リモコンブロック放送

- 一般リモコンからの放送を「**一般ブロック放送**」、**ブロック一斉放送指定**と同様に、まとめて放送することができます。

メモ

- 「**一般ブロック放送**」、**一般リモコンブロック放送**の書き込み指定をしない場合、A～Eのブロック選択スイッチおよび、5局リモコンマイクは、放送階選択スイッチの1～5に対応（10局リモコンマイクは、放送階選択スイッチの1～10に対応）しています。
- Aのブロック選択スイッチを押すと、Aの作動表示灯が点灯し、1のスピーカー回線に放送されます。



7. チャイムブロック放送

- 始業や終業および休憩時間などのチャイム放送したい場所をまとめて放送することができます。（書き込み指定しない場合は、一斉放送となります。）

8. 一般外部ブロック放送

- 一般外部放送とは、BGMなどを1日中放送したい場合に使うもので、BGMなどが動作しているときは、常にBGM放送が流れています。途中で、マイク放送などでBGM放送が中断されてもマイク放送などが復旧すれば再びBGMが流れます。
- 一部外部放送は、「**チャイムブロック放送**」同様にまとめて放送することができます。（書き込み指定をしない場合は、一斉放送となります。）

9. 自動アナウンスブロック放送

- 別売の自動アナウンスユニットを組み込んだとき、自動アナウンス放送したい場所を指定することができます。（書き込み指定をしない場合は、一斉放送となります。）

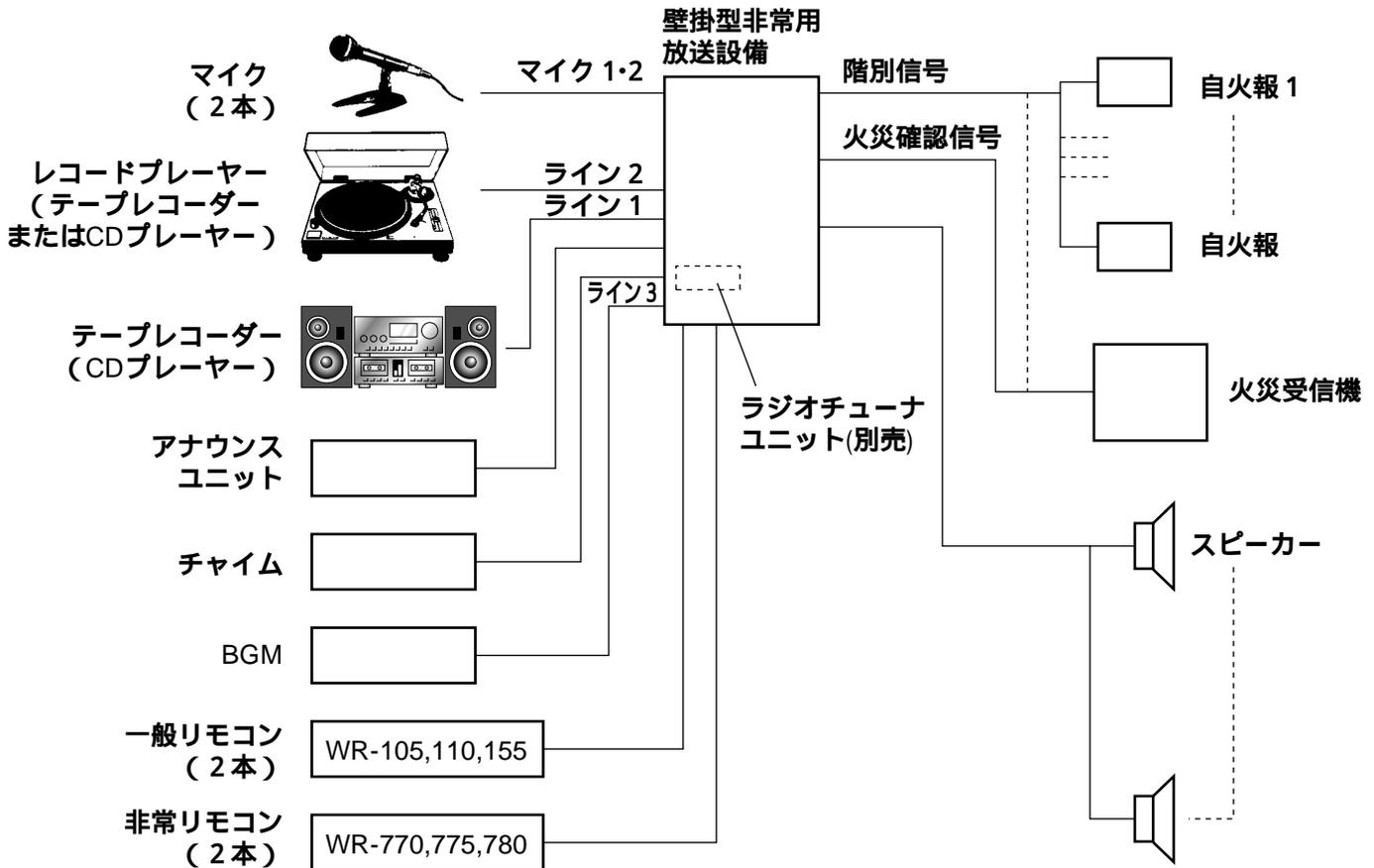
10. 汎用制御出力端子

この出力端子を10種類の書き込み項目に従い、出力制御できます。

接続できる機器について

接続できる機器について

- 接続については、販売店にお申しつけください。
- 非常放送の内容は録音できませんのでご注意ください。
- レコードプレーヤーは基板内部でライン2と切り換えです。
- マイク1、ライン2は底面の外部入力ジャックにも接続できます。
(外部入力ジャックに接続した場合は、内部入力端子の入力は“断”となります)



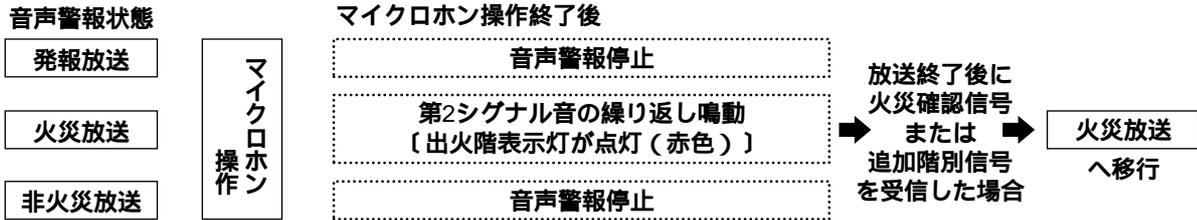
マイク優先回路について

- マイク1、マイク2の放送中はライン1、ライン2の音声を減衰させることができます。
(ライン1、ライン2以外は、減衰しません)
- 減衰量は基板内部で調節できます。(販売店にお申しつけください。)

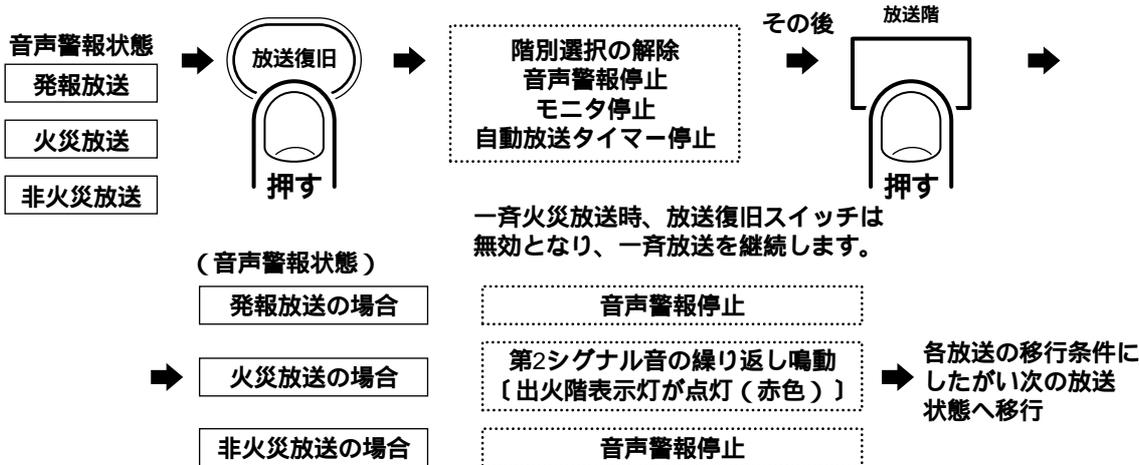
その他の動作

非常マイクロホン操作について

非常マイクロホン操作は、音声警報状態に優先します。



放送復旧スイッチ操作について



自火報に確認信号がない場合は感知器起動動作になります。

表示カードの使いかた

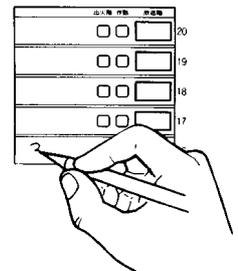
放送階選択スイッチおよびブロック選択スイッチには、各スピーカの設置場所やブロック指定した場所など記入する表示カードが付いています。

表示カードへの記入方法

- アクリルカバーの上下の端面に指をかけ、手前に引いて、アクリルカバーを外します。
- カバーの下の表示カードにスピーカの設置場所やブロック指定した場所などを記入します。



- 表示カードの記入は、鉛筆で行うと、消しゴムで簡単に消えますので、訂正や変更が容易です。



- 記入後は、アクリルカバーをもとの位置に、はめ込みます。爪部分は、無理に力を加えると折れますのでご注意ください。

日常点検

お願い

万一の際、的確に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または、保守契約店にご連絡ください。修理、復旧を実費でおこないます。くわしくは、販売店にご相談ください。

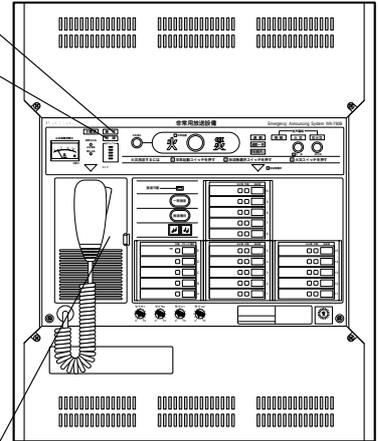


点検について

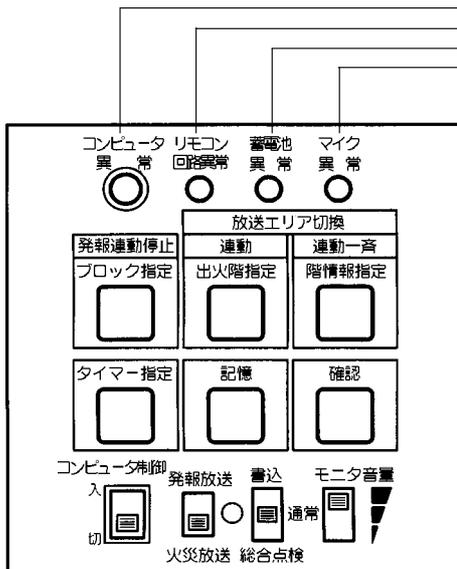
- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピュータがリモコン回線、コンピュータ自身、スピーカー回線（短絡）、マイクを常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検をおこないます。
- コンピュータが異常を発見したときは、操作パネル左上の異常表示灯、または短絡表示灯が点灯し警告音（ブザー：ピー）が鳴ります。マイクドアを開け、どこの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。（異常が本体か、リモコンかは両方のマイクドアをあけて確認してください。）
- 警告音を止めるにはいずれかのスイッチを押してください。一時的に止めることができます。異常表示灯は赤く点灯したままです。

異常表示灯(赤色) 短絡表示灯(赤色)

スピーカー回線が短絡すると点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。



マイクドア内



コンピュータ異常表示灯(赤色)

コンピュータ異常時、点灯します。

リモコン回線異常表示灯(赤色)

リモコン回線異常時、点灯します。異常のあるリモコンのリモコン回線異常表示灯も点灯します。

蓄電池異常表示灯(赤色)

蓄電池電圧が異常の場合、点灯します。ブザー音（ピー）が約4秒おきに鳴ります。

マイク異常表示灯(赤色)

マイクがなんらかの原因で断線状態になると点灯します。リモコンのマイク異常であれば異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。

電源の点検

メモ

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピュータが24時間おきに蓄電池の点検を自動的におこないますが、手動でも点検がおこなえます。
- 手動で点検をおこないますと、コンピュータは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



自動点検

コンピュータが24時間おきに点検をおこないます。

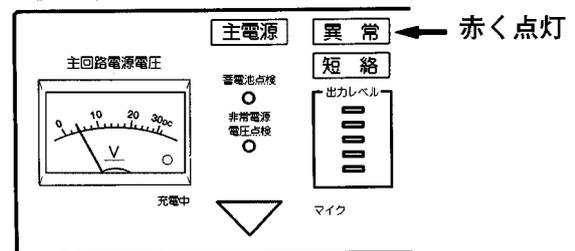
〔コンピュータが異常を発見したとき〕

- 「異常表示灯」と「蓄電池異常表示灯」が赤色に点灯し、4秒おきにブザー音（ピー）が鳴ります。

〔処置〕

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すとブザー音（ピー）が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- ブザー音（ピー）が止まっても異常表示灯は赤く点灯したままです。

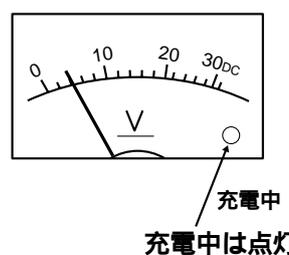
Panasonic



手動点検

1. 主回路電源電圧を確認してください。
非常電源電圧点検スイッチを押さないで、主回路電源電圧の針が緑色（DC21～31 V）の範囲内であることを確認します。
2. 蓄電池電圧を確認してください。
蓄電池点検スイッチを押して、主回路電源電圧計の針が緑色（DC21～31 V）の範囲内にあることを確認します。

主回路電源電圧



蓄電池点検

- ← 押す
非常電源（蓄電池電圧）
電圧点検
- ← 押す
（非常電源電圧）

⚠ 注意

蓄電池の電圧の点検は、1日の点検で2回以内までとしてください。

指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時に本システムが動作しなくなる恐れがあります。

3. 非常電源電圧を確認してください。
非常電源電圧点検スイッチを押した状態で、主回路電源電圧計の針が緑色（DC21～31 V）の範囲内にあることを確認します。
4. 充電中表示灯が点灯していることを確認してください。
●充電中は点灯となります。

メモ

- 主電源が遮断（停電）されると、「主回路電源電圧計」の表示は、非常電源電圧に切り替わります。
この間、表示値が下がりますが、異常ではありません。
- 停電時に、「非常起動スイッチ」を押下すると、一瞬、各表示灯が点灯することがあります。異常ではありませんので、「火災灯」が点灯するまで、そのまま押下してください。

日常点検

蓄電池の交換について

⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か
保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際容量不足があれば、新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いには注意してください。

電力増幅器(出力)	ニカド蓄電池
	品 番
WU-P36A (60 W)	NCB-165
WU-P37A(120 W)	NCB-350
WU-P38A(240 W)	NCB-600
WU-P39 (360 W)	NCB-600

- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。

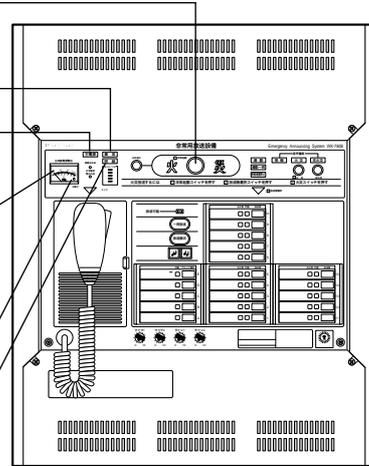


Ni-Cd

こんなときには

すぐに販売店または、保守契約店にご連絡ください。

- 非常起動スイッチを押しても火災灯が暗い。
- 異常表示灯が点灯。
- 主電源表示灯が消えている。
- 通常ご使用時に針が緑色の範囲にない。または、「非常電源点検スイッチ」や「蓄電池点検スイッチ」を押したとき針が緑色の範囲にない。
- 充電中表示灯が消灯。
- 短絡表示灯が点灯。



保守点検のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。
- 建物の規模、用途によっては消防設備士または、自治大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。
- 当社では非常用放送設備が正しく動作するために、締結をおすすめします。
- 保守契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。



定格・付属品

定格

電 源		AC100 V 50/60 Hz DC24 V			
電力増幅器		WK-770B	WK-775B	WK-780B	
WU-P36A (60 W)	消費電力(注) 定格消費電力	100 W 172 W			
WU-P37A (120 W)	消費電力(注) 定格消費電力	150 W 318 W	150 W 318 W	150 W 318 W	
WU-P38A (240 W)	消費電力(注) 定格消費電力	250 W 644 W	250 W 644 W	250 W 644 W	
WU-P39 (360 W)	消費電力(注) 定格消費電力	280 W 655 W	280 W 655 W	280 W 655 W	
警報時 消費電力 (平均値)	60 W	DC24 V	39 W		
	120 W	DC24 V	66 W	66 W	66 W
	240 W	DC24 V	126 W	126 W	126 W
	360 W	DC24 V	271 W	271 W	271 W
ミ キ サ ー 部	周波数特性	50 ~ 15,000 Hz ± 2 dB			
	歪率	1 % 以下			
	音質調整	低 : 100 Hz ± 10 dB			
		高 : 10,000 Hz ± 10 dB (1,000 Hz基準)			
	マイク1、2 マイク1: 外部 ジャック 並列入力	入力レベル	- 64 dB		
		入力インピーダンス	600 に適合 マイク1: 不平衡 マイク2: 平衡		
	ライン2/レコード 外部ジャック 並列入力	S/N	50 dB以上		
		回路数	2回路		
		入力レベル	- 22 dB (ライン2)		
		入力インピーダンス	- 56 dB (レコード)		
	ライン1 (CD)	入力レベル	50 k 不平衡(ライン2)		
		S/N	50 k 不平衡(ライン2)		
		回路数	50 k 不平衡(ライン2)		
		回路数	1回路 (基板内で切換)		
	一般リモコン	入力レベル	- 22 dB		
入力インピーダンス		10 k 平衡			
S/N		65 dB以上			
回路数		1回路			
アナウンスマシン (緊急)	入力レベル	0 dB			
	入力インピーダンス	10 k 不平衡			
	S/N	65 dB以上			
	回路数	1回路			
チャイム	入力レベル	- 30 dB			
	入力インピーダンス	10 k 不平衡			
	S/N	65 dB以上			
	回路数	1回路			
ライン3	入力レベル	- 22 dB			
	入力インピーダンス	10 k 不平衡			
	S/N	55 dB以上			
	回路数	1回路			
録音出力	出力レベル	0 dB			
	負荷インピーダンス	ハイインピーダンス			
	回路数	1回路			
	回路数	1回路			
チューナー入力	入力レベル	- 22 dB			
	入力インピーダンス	20 k 不平衡			
	S/N	55 dB以上			
	回路数	1回路			
非 常 操 作 部	非常用マイク入力	- 55 dB 600 に適合 不平衡AGC付 (一般アナウンスと兼用)			
	音声合成部	日本語 / 日本語 + 英語 切換 メッセージボリューム付 (増設ロムボード取付可)			
	非常リモコン	入力レベル	- 3.8 dB		
		入力インピーダンス	600 平衡		
	回路数	1回路			
	出力レベル灯	5ポイント発光ダイオード表示			
	モニタスピーカー	出力	0.3 W		
		アッテネータ付	(3段切換)		
	ハウリング防止回路付				
	主回路電源電圧計 (非常用)	非常電源電圧 (DC24 V)			
		蓄電池電圧	プッシュ・ノンロック切換式		
	制御回路	放送階選択	10局 + 一斉	WK-770B	
			15局 + 一斉	WK-775B	
			20局 + 一斉	WK-780B	
	ブロック選択	5局			
音声警報スイッチ	火災放送スイッチ 非火災放送スイッチ				
負 荷 インピーダンス	60 W	100 Vライン : 170			
		70 Vライン : 85			
	120 W	100 Vライン : 85			
		70 Vライン : 42			
	240 W	100 Vライン : 42			
		70 Vライン : 21			
	360 W	100 Vライン : 27			
		70 Vライン : 13			
使用蓄電池 (非常用)	60 W	NCB-165 1,650 mA/5HR、41 mA (WK-770 Bのみ)			
	120 W	NCB-350 3,500 mA/5HR、88 mA			
	240/360 W	NCB-600 6,000 mA/5HR、150 mA			
外部制御端子 (リモコンは各2台 まで接続可)	階別信号入力EL (10 / 15 / 20)				
	火災確認入力EF				
	EB接点 (24 V 1 A)				
	非常外部制御 (EMG24 Vブレイク50 mA)				
	+ RU出力 (+ 24 V 50 mA)				
	一般外部制御入力				
	アナウンスマシン作動制御入力				
	チャイム制御入力				
	非常リモコン制御(専用インターフェース)(10)				
	一般リモコン制御(10局 + 一斉)				
放送制御入力(M)					
コールサイン制御入力(上り/下り)					
+ 24 V (100 mAリモコン時出力)					
スピーカー出力(10 / 15 / 20) (N/R/C)					
汎用制御端子(オープンコレクタ35 V 50 mA)					
自己診断機能 寸 法	バッテリー、パネルマイク、リモコン、短絡				
	498(幅) × 610(高さ) × 150(奥行)mm				
質量 (重量)	本体のみ	電力増幅器	WK-770B	WK-775B	WK-780B
			約11.2 kg	約11.4 kg	約11.5 kg
	電力増幅ユニット、 バッテリー 組み込み時	WU-P36A	約19.0 kg		
		WU-P37A	約23.6 kg	約23.8 kg	約23.9 kg
		WU-P38A	約27.6 kg	約27.8 kg	約27.9 kg
WU-P39	約24.4 kg	約24.6 kg	約24.7 kg		
仕 上 げ	パネル、上下カバー、側板 : マンセル7.9Y6.8 / 0.8近似色 (AVアイボリー色)				

(注) この表示は、電気用品取締法の技術基準に基づくものです。

付属品

マイクロホン (WU-Z22U)	1
分電盤注意ラベル	1
壁取付けスペーサ	4
消費電力・蓄電池品番ラベル(本体に貼付済)	1

取付用型紙	1
返信用ハガキ	1
操作説明書	1
工事説明書	1

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing notes.

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing notes.

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は...

まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理相談窓口」へ！

保証書(別添付)

必ず、お買い上げの販売店からお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめのうえ受け取り、よくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間：お買い上げ日から1年間

修理を依頼されるとき

まず電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきます。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

お 買 上 げ 年 月 日	年	月	日	品番	WK-770B, 775B, 780B
販 売 店 名				電話 ()	-

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 AVシステム事業部

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎(045)932-1231(大代表)

N0297-3068

A8QA4538DN